

「大桑小ならではの」の教育
 ○児童の活躍の場と児童と教師が関わる場の絶対量
 ○自然と歴史を基にした地域連携

大桑小グランドデザイン2021

市の基本理念「師を仰ぐ心」を養う
 「師」とは、親・先生・先輩・地域の人々
 「子」は、人々の熱き思いに育まれていることに感謝し、教育は、それらの人々を尊ぶ心を養う。
 (学校教育の課題解決のアプローチ)
 ・いじめ、不登校等、長年学校が抱え続ける課題解決へのアプローチ
 ・10年先から今を見た教育の役割へのアプローチ

学校の教育目標

力いっぱいやりぬく 大桑の子

学校や地域に愛着と誇りを持ち 自分たちで豊かな学びや生活を創り出していくたくましい児童
 ～ 中学校へ進学しても大桑で学んだことを生かし、活躍できる児童 ～

<合言葉>

すすんで(自分から)

自分たちで

みんなのために(ありがとう)

・自分に自信をもち、自ら考え、行動し、たくましくやりぬく力

・思いやり、ルールを守り、助け合って、自分たちの力でよりよい学びや生活を築く力

・仲間、家族、学校、地域を大切に思う心
 ・学校、家庭や地域に貢献する力

探求する力

<学習の「もととなる力」の育成>
 ・知的好奇心・興味関心の育成
 ・主体的に問題解決に向かう体験
 ・基礎的・基本的な知識・技能の習得

生涯に渡ってたくましく生きるための「もととなる力」を育成

人と関わる力

<社会性の「もととなる力」の育成>
 ・人間関係を結ぶ実践力の育成
 ・協力して生産したり改善したりする喜びの体験
 ・社会のルール・マナーなど生活習慣の習得

<総合的な学習の時間>
 「ふるさと学習」
 3・4年生
 「これからの大桑の農業」
 5・6年生
 「大桑のまちおこし計画」

<道徳>
 「ありがとう」と「ごめんなさい」が素直に言える児童を育てる。
 ・「善」の連鎖、「ありがとう」の連鎖を仕組む。
 ・伝統・文化の継承 朝ボランティア

<教科>
 学習のおもしろさを楽しめる児童を育てる。
 少人数を強みとして、確実に学力を高める。
 ・自分の力で課題解決させる支援と見届け
 ・個々の考えをじっくり語らせる時間確保
 ・繰返し学習による基礎学力の定着
 ・学年合同教科における縦割り班の活用

<特別活動>
 学校内外の枠を超えて、人間関係形成力と社会参画力を身に付ける。
 ・縦割り班で協働する児童会活動
 ・三校交流活動の充実
 ・地域防災訓練への参加

【優れた体験的活動が豊かな感性を醸成する】 間接体験・疑似体験(便利・簡単) → 直接体験(不便・面倒を楽しむ)
 ○「見る(視覚)」「聞く(聴覚)」「味わう(味覚)」「嗅ぐ(嗅覚)」「触れる(触覚)」を働かせ、物事を感覚的にとらえる体験(感性の醸成)
 ○「知」を総合化し、課題発見能力や問題解決能力を高める。「なぜ、どうして」「どうしたらよいか」日頃学んだことを生かし、課題の解決を図る。

【学び合い、高め合える仲間】

集団の成立条件: 仲間・目標・きまり・役割

「きびしさ」鍛え合う

「あたたかさ」見つめ合う

「ひたむきさ」求め合う

集団性育成の三原則: 正義の確立・組織の確立・文化の醸成

【教師主導から児童主体へ】 ◇みんなで正しく判断し、守れる集団なのか(教師主導) / みんなで決めたことは、みんなで守る(児童主体)
 <トラブルを乗り越えるための視点>
 ◆なまけか、失敗か ◆いじめか、ケンカか ◆努力して解決できることか、できないことか ◆事実をもって判断したか

【基盤となる指導】日常生活の基礎・基本にかかわる指導 ～ 凡事徹底 ～

安心感のある生活: 「きまり・約束は守る」「いじめを許さない」 4つの約束の徹底
 清々しい環境: 「学校(教室)は、自宅同様に大切にす」 掃除 後片付け 掲示物 朝ボランティア
 互いを尊重する関係: 「全校の合い言葉『自分から』『みんなに感謝』『ありがとう』」 ペイ・フォワード活動

【事務部の主体的参画】

<事務部経営方針>
 児童にとって安心安全な学校環境づくりに努める。

【教師の構え】

教科指導力こそ
 生徒指導力の基本
 学習の魅力を伝えられる教師は、生徒指導もできる。

【自己有用感・自己肯定感を高める】 「ありがとう(有用感)」と「すごいね(肯定感)」の使い分け

自己有用感: 主に生活
 「ありがとう」

意気に感じさせること

自己肯定感: 主に授業
 「すごいね」

できるようにすること

好きなことを見つけ、没頭させること

【道徳】「ありがとう」「ごめんなさい」
 ・児童にも感謝の気持ち「ありがとう」の姿勢
 ・同じ人として「ごめんなさい」と言える姿勢
 ・「情」と「理」の両輪の指導に心がける。
 ・一歩立ち止まって、「考えさせる」「見つめさせる」ゆとりを持って指導にあたる。

【教科】 願いをもって教え・学ばせ、見届ける
 ・願いをもって、(その子に応じた)力を付けける。
 「見届け」=「やりきらせる」
 ・児童の発表(話)は最後まで聞く。
 ・活動に節目をもって授業を進める。
 ・授業は、時間を守って終わる。

【健康・安全】 児童の命を守り切る
 ・「子供」は、体を動かすことが大好き。
 ・児童に危険を見立てさせる動きかけ。
 ・「大丈夫かな?」「ちょっと変だな?」
 と思ったらすぐ報告・対応。

【指標】

・ことにおいて人としての正しさを問うことができる児童を育てられたか

・学習のおもしろさ、学ぶ楽しさを味わわせられたか
 ・学力を目標値に到達させられたか

・自分の命を自分で守ることができる児童を育てられたか
 ・夢中になって遊べる児童を育てられたか

【幼保小中連携】・中学校でも通用する指導であるか
 ・幼保の指導を引き継いだ指導であるか

コミュニティ・スクール 学校運営協議会 「共に育てる」

家庭・PTAとの連携 「家庭の成長」=「子供の成長」

・PTAスローガン「明るく元気なPTA」
 ～まず「大人から」仲良く明るく元気になろう～
 ・学校の指導指針の明示と子育て指針の共有
 ・我が子の成長を共有できる取組と情報発信
 ・学校評価を活用した学校改善
 ・家庭学習の充実と連携

学校 家庭・地域
 「教える」⇔「見届ける」

地域・関係諸機関との連携 「地域と元気を共有しよう」

・地域と協働した行事の開催(運動会・かしの木F等)
 ・若松学園との日常的な連携
 ・まちおこし「くりっきー」の開発
 ・地域の人材や団体の協力による校外学習等の充実
 ・大桑・桜尾・梅原三校交流の充実
 ・安全教育・防災教育の連携強化
 ・地域行事への積極的な参加